

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 13 August 2002

背景: 一酸化窒素には、虚血性脳卒中において有益と考えられる作用がいくつかあり、急性脳卒中での高血圧管理には有用である。一酸化窒素シンターゼ阻害薬にも有用な形態のものがある。しかし、一酸化窒素が高濃度の場合は脳組織に対して毒性がおよぶと考えられている。

目的: 本レビューの目的は、急性脳卒中患者における一酸化窒素供与体、L-アルギニン、または一酸化窒素シンターゼ阻害薬の効果について評価することであった。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2002年3月)、EMBASE(1980年~2002年3月)、MEDLINE(1966年~2002年3月)、ISI Science Citation Indexes(1981年~2002年3月)を検索した。本分野の製薬会社や研究者と連絡をとった。

選択基準: 確定診断された脳卒中の発症から1週間以内の患者を対象として、一酸化窒素供与体、L-アルギニン、または一酸化窒素シンターゼ阻害薬が比較されたランダム化試験と準ランダム化試験。

データ収集分析: 2名のレビューアが独立に登録基準を適用した。データは、95%信頼区間(CI)とともに加重平均差(WMD)またはオッズ比(OR)として提示する。

主な結果: 一酸化窒素供与体であるニトログリセリン(GTN)の経皮投与について終了した2件の小規模試験(患者127名)があった。GTNでは、24時間収縮期血圧が7.9mmHg低下し(95%CI 0.1、15.8)、心拍数が上昇した(WMD 6.2回/分、95%CI 2.7、9.8)。GTN投与には、投与終了時点での死亡または死亡と増悪の組み合わせ、あるいは投与終了時点での死亡、死亡と依存の組み合わせ、または死亡と施設入居の組み合わせに対する統計的に有意な効果がなかった。

レビューア見解: 現在のところ、急性脳卒中患者に対する一酸化窒素供与体、L-アルギニン、または一酸化窒素シンターゼ阻害薬の適用が推奨されるほどの効果に関するエビデンスは、ランダム化試験から得られていない。ニトログリセリン貼付剤の大規模臨床試験が1つ進められている。

Citation: Bath PMW, Willmot M, Leonardi-Bee J, Bath-Hextall FJ. Nitric oxide donors (nitrates), L-arginine, or nitric oxide synthase inhibitors for acute stroke. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2002, Issue 4. Art. No.: CD000398. DOI: 10.1002/14651858.CD000398.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Stroke

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。